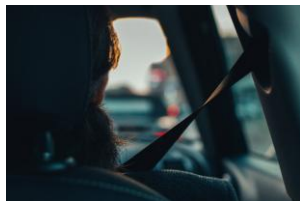


後部座席の安心、運転席の不安

ふじ けい
藤 桂

専門 社会心理学、メディア心理学



「チャック、安心して、なにかな？」

「安心…安心してのは、車の後部座席で眠ることじゃないかな…君は小さな子どもで、親と一緒にどこかに出かけてきた帰りで、もうすっかり暗くなった。車は家に向かっていて、君はゆっくり後部座席で眠れる…君は何にも心配せずにいられる。前の座席には親がいて、心配事は全部引き受けてくれるし、なんでも気遣ってくれる」

「それは本当に素敵ね！」

「でも、そんなことはいつまでも続かない。すぐに、君は成長する。二度とそんなことができなくなる。ある日から二度と、後部座席で眠ったままではいられなくなる！絶対に！」（訳は著者）

上記は、チャールズ・M・シュルツ氏の“PEANUTS”という漫画からの引用です。

「安心とは何か」を的確に表した会話として有名なものですが、その一方で「大人になることの不安」をこれ以上ないほどに伝える一節ともいえるでしょう。

「大人になる」とは、どういうことなの

でしょうか。このやりとりを踏まえるなら、運転席で一睡もせず、心配事もすべて自分で対処しながら、後部座席で眠る存在を気遣い、目的地へと走り続けなくてはいけなくなる…いわば、責任を果たし続けること、とも言い換えられるかもしれません。

大人の責任の一つとして、「働く」ことが挙げられます。しかし働くというのは、必ずしも楽しいことばかりではありません。日々積み重なる仕事をひたすらこなし、なお走り続けるその様子は、まさに上記のような過酷なドライブそのものです。…なんだか大人って、不安なことばかりです。

ですが、冒頭の一節には続きがあります。

「…絶対？」

「間違いなく絶対に！」

「私の手を握って、チャック！」

このやりとりもまた、「安心」とは何かを説明するものではないでしょうか。私も、大人として生き、働き続けるためには、まさに「誰かと手を握る」ことが重要ではないかという思いから研究を行っています。

ビジネス中の握手のようにではなく、そつと優しく、ただそばにいて、手を握り合うこと——仕事の中で例えるならば、日々の慌ただしい仕事の中で飾らずに冗談や雑談を交わし合うことや、時には仕事から離れて昔の友だちとの会話をただ楽しむこと——そんなやり取りこそが、日々働き続けるための活力を取り戻すきっかけになるのではと考えながら研究をしています。また、人の手を握り支える職業において、日々多くの困難に見舞われていても、自分の手を握り返してくれる相手がいるという相互性の実感が意味を持つこと。時に新しい職場に移ったり、未知への挑戦が求められたりしても、そんな時にこそ、手を差し伸べてくれる存在が周囲にあることや、その手ざわりを感じる自分の中にはどんな思いがあるかを明確に感じ取ることも、仕事を続けるための原動力となる…というような研究もいろんな方と一緒に取り組んできました。

さて、ここまで引用してきたやりとりには、さらに次のような続きがあることを知っている方も多いのではないのでしょうか。

「いつかは君が前の席に行かなきゃならない。そして、もういない親の代わりに、君が誰かを安心させる側になるんだ」

こちらもまた、安心とは何かを深く感じさせるものですが、実はこのフレーズ、公式のものではありません。インターネット

上で誰かが付け加えたのをきっかけに、多くの人々の共感を呼び、今ではこの部分までがよく紹介されるようになったのです。

シュルツ氏の言葉ではなくとも、私はこの部分がとても好きで、そして、これこそがネットというつながりの本質ではないかと感じています。膨大な情報に振り回されたり、自分より優れた相手を見つけては虚しくなったり、絶えず人と人が傷つけあったり…まさに「大人になりきれない心」も多々見られるネット社会ですが、その中でも、言葉にできない自分の思いを代弁してくれる誰かの言葉を見つけることができた、そこに確かな共感を抱きながら自分が走る道の先を少しだけ明るく感じられたりもする。これもネットならではの特徵ではないでしょうか。親指を上に向けたり下に向けたりするばかりでなく、広大なネット上ですれ違うどこかの誰かと、大人として生きる不安を分け合い、手を握りあえる可能性を願いながら研究を続けています。

「それに家に着いたら、後部座席を振り返ってごらん。そしたら…そこにも安心つてのが、あるはずだよ」

いつかこっそり、こんなフレーズをさらに追加できたらなと思ったりもしています。運転席から見えた寝顔から受け取る気持ち、それこそが、大人になってもまた感じられる安心、なのかもしれません。